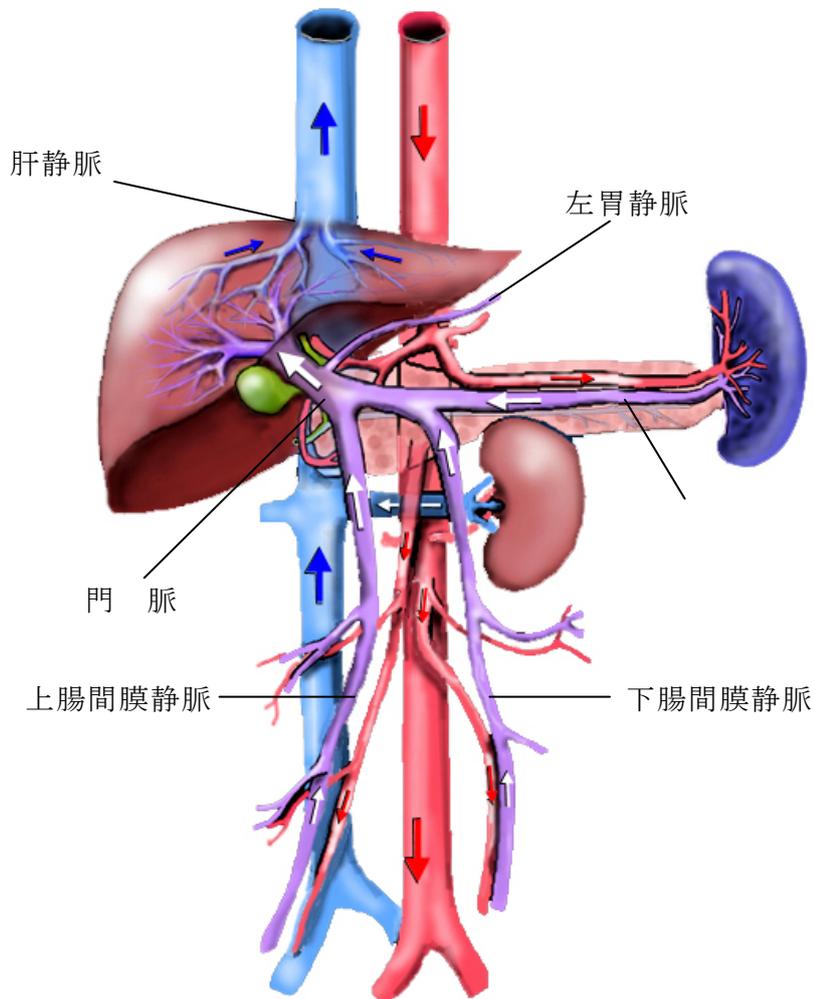


## 門脈系のはたらき



門脈系循環は泌尿器系を除く腹部器官から静脈血を肝臓に集める循環系です。通常の循環では心臓を出た動脈は抹消で微小循環系に入り、毛細血管が集まって静脈となって心臓に還流されます。門脈系は動脈から消化管内の毛細血管となり、少しずつ太くなって栄養に富む静脈血を集め、肝臓に入る門脈となり、さらにもう一度肝臓内の類洞毛細血管を通過します。つまり消化管と肝臓という2度の毛細血管を通過することで吸収と代謝、合成の役割を分担している循環系といえます。

次の部位から静脈血を集める4つの静脈血管名が大切です。

上腸間膜静脈	小腸(吸収された栄養に富む)、上行結腸、横行結腸
下腸間膜静脈	横行結腸の残り半分、下行結腸、S状結腸、直腸上部(直腸静脈と吻合)
脾静脈	脾臓(破壊された赤血球成分を含む)
左胃静脈	胃(食道静脈と吻合)

肝臓に流れ込んだ門脈血(4/5)は類洞で動脈血(1/5)と混合され肝細胞で代謝されて小葉中心静脈に流れます。これが集まって肝静脈となり肝門を経ずに下大静脈に流れます。